

平成18年度 事業計画書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)



学校法人 東京女子医科大学

目 次

I.事業計画策定にあたっての基本方針.....	3
II.平成 18 年度 事業計画.....	4
1.事業の概要.....	4
(1) 第 1 病棟建築に向けての準備.....	4
(2) 本院・入院病棟への電子カルテの導入.....	4
(3) 早稲田大学との新形態融合大学院の研究・教育推進のための検討・協議.....	4
(4) 八千代医療センターの開設.....	4
(5) 東医療センター 日暮里ビルクリニック（仮称）の開設準備.....	5
(6) 「マスタープラン 21 プロジェクト」（仮称）について.....	5
2.主な事業の目的・計画.....	6
【教育】	
(1) 東京女子医科大学 医学部.....	6
(2) 東京女子医科大学 看護学部.....	7
(3) 東京女子医科大学大学院 医学研究科.....	9
(4) 東京女子医科大学大学院 看護学研究科.....	9
(5) 東京女子医科大学 看護専門学校.....	10
(6) 図書館.....	10
(7) 国際交流.....	10
(8) シンポジウム・公開講座.....	10
【研究】	
(1) 先端生命医科学研究所.....	12
(2) 総合研究所.....	12
(3) 実験動物中央施設.....	12
(4) 国際統合医科学インスティテュート（IREIIMS）.....	12
【医療】	
(1) 東京女子医科大学病院.....	14
(2) 東医療センター.....	14
(3) 成人医学センター.....	15
(4) 膠原病リウマチ痛風センター.....	15
(5) 東洋医学研究所.....	15
(6) 青山病院.....	16

(7) 女性生涯健康センター.....	16
(8) 青山女性・自然医療研究所.....	16
(9) 遺伝子医療センター.....	16
【経営・管理】	
(1) 中長期経営計画の策定.....	17
(2) 財政基盤の強化.....	17
(3) 組織・制度の見直し.....	17
(4) 人事制度の充実.....	17
(5) 情報戦略の策定.....	17
(6) 物品の購入・管理.....	17
(7) ファシリティマネジメント.....	18
Ⅲ.平成 18 年度予算について.....	19
1.資金収支予算.....	19
(1) 資金収入.....	19
(2) 資金支出.....	20
2.消費収支予算.....	21
(1) 消費収入.....	21
(2) 消費支出.....	21
主な事業に対する予算措置.....	22

I. 事業計画策定にあたっての基本方針

建学の精神、使命、理念に則り、本法人の中長期ビジョンを達成することを基本方針とする。

<建学の精神>

高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出する。

<使命>

最良の医療を実践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行う。

<理念>

至誠と愛

<中長期ビジョン>—経営方針

世界のメディカルセンター（世界トップレベルの教育・研究・医療）を目指す。

すなわち、常に「至誠と愛の心」を持ち、

（教育）知識・技能に対する自己研鑽を怠らぬ、あたたかい心を持ち国際的な感覚を備えた医療人および医学・看護学研究者の育成を目指す。

（研究）社会貢献を念頭に置き、人間の幸せの基本である健康を向上する目的をもって独創的で世界に発信できる研究成果を生み出す。

（医療）安全で質の高い医療を提供し、社会と地域に貢献する国際的な医療機関を目指す。

Ⅱ. 平成 18 年度 事業計画

1. 事業の概要

(1) 第 1 病棟建築に向けての準備

- ・ 本院（河田町キャンパス）の病棟施設の更新を図るため、総合外来センター東側に地上 9 階・地下 2 階、病床数約 240 床（延べ床面積約 20,900m²、1 フロアー当たりの面積約 1,500 m²）の新病棟を建築予定している。
- ・ 基本コンセプトは、①医療の質と安全性、②患者様のアメニティー、③学生・職員の教育の視点、④経済性（効率性）。
- ・ 平成 19 年 1 月工事着工予定、平成 21 年 3 月オープンを目標に鋭意準備を進める。

(2) 本院・入院病棟への電子カルテの導入

- ・ 平成 15 年 5 月総合外来センターがオープンした際に導入された電子カルテシステム（第 1 期計画）に引き続き、本院の入院病棟へ平成 18 年 10 月稼動を目標に導入を予定している。（第 2 期計画）
- ・ 今回の導入により、患者様の診療情報を入院・外来共に一元管理し、今まで以上に医療安全と医療の質の向上を推進する。また、経営支援データの収集分析が容易となり収支改善にも寄与する。

(3) 早稲田大学との新形態融合大学院の研究・教育推進のための検討・協議

- ・ 本学と早稲田大学は、平成 17 年度に共同取得した政策研究大学院大学跡地（新宿区若松町 2-2、7,017.5m²）において、平成 20 年 4 月を目指して教育研究施設を開設させる予定。
- ・ 今後、両大学は医療臨床分野に理工系分野を融合する研究および人材育成のための体制の一層の整備、強化を行い、バイオ医学関連、生命医療系分野における集積した研究成果を基に多大な社会貢献を果たす。また、新しい治療法や診断システムの概念を創り出す独創性豊かな人材育成にも取り組む。

(4) 八千代医療センターの開設

- ・ 本年 12 月、千葉県八千代市大和田新田 477-96（東葉高速鉄道 八千代中央駅下車徒歩 10 分）に、地域医療を支援する中核病院として開設予定。
- ・ 病床数は 355 床。総合周産期母子医療センターや、第三次救急医療センターに準じた 365 日、24 時間対応の救急医療体制を整備。
- ・ 地元医師会・歯科医師会等と密接に連携して、地域の医療課題解消のために積極的に貢献する。また、NST（栄養サポートチーム）や退院支援チームなどのチー

ム医療を推進し、質の高い医療を提供する。

- ・ 診療科は、内科（呼吸器、血液・腫瘍、循環器、消化器、神経、腎臓、糖尿・代謝、膠原病リウマチなど）、外科（一般・外傷、消化器、呼吸器・血管、乳腺・代謝など）、小児科、母子センター、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、女性科、心身医療科、麻酔科、歯科口腔外科のほかに、リハビリテーション部も設置する。

(5) 東医療センター 日暮里ビルクリニック（仮称）の開設準備

東医療センターにおける外来患者数の増加に伴い、外来スペースが狭隘となったために、JR 日暮里駅前に再開発中のステーション・ポート・タワー4階に、総合外来クリニックの開設準備を推進する。開設は、平成19年6月頃の予定。

(6) 「マスタープラン21プロジェクト」（仮称）について

- ・ 現代の厳しい外部環境に対応するため、そして大転換期を迎えた本学の根本的な問題点を、抜本的に解決していくために中長期を見据えた「本学の目指すべき姿」「進むべき道」を明示するための検討プロジェクトを推進させる。
- ・ 本プロジェクトは、建学の精神・ミッションおよび理念に基づいて、これからの本法人が提供する価値（サービス）の内容と品質を「提供者側」の論理ではなく「受ける側」の視点で再構築し、それを実現する改革計画を策定し実行する。最終的には、これからの中長期マスタープランと、それを達成するための中短期先導プランを作成する。

2. 主な事業の目的・計画

【教育】

(1) 東京女子医科大学 医学部

1) 学生の質の向上

一般入学試験に加えて、推薦入学試験ならびに指定校推薦制度を取り入れ、将来の医師としての適性判断に重きをおいた入学選抜試験を行う。入学後は、テュートリアル教育と人間関係教育を通じ、人間性豊かな、生涯学び続けていくことのできる医師の育成を目指す。

2) 教員の質の向上

教育の質を高めるための学内ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を活発に行うと同時に、学外のセミナーや講習会への教員の派遣を積極的に進める。また教育活動実績の評価法の確立を目指す。

3) カリキュラムの質の向上

本学の医学教育は、統合カリキュラム、テュートリアル教育、人間関係教育の三本柱からなっており、これを更に発展させて良医の育成に努める。現在、本学では特色 GP《文部科学省 平成 15 年度特色ある大学教育支援プログラムー「人間関係教育を包含するテュートリアル教育-温かい心を持ち問題解決能力を備えた医師の養成」（医師のプロフェッショナルリズムを含むテュートリアル教育の改良）》及び現代 GP《文部科学省 平成 17 年度現代的教育ニーズ取り組み支援プログラムー「アイ・アム・ユア・ドクタープロジェクト」（仕事で英語が使える日本人という取り組みについて臨床で患者様と英語でコミュニケーションする英語力の開発）》において計 2 件の教育プログラムが採択されており、医学教育の新しいあり方を目指して努力している。

4) 女性医師育成のためのバックアップ

本学の建学の精神は女性の自立であり、これに基づき女性医学生及び女性医師の教育環境ならびに労務環境の整備に努める。また、女性の特質を生かすことのできる分野の開発に努める。

5) 医学教育全般の評価

本学における医学教育のあり方は、学外においても高く評価されており、その結果として、特色 GP と現代 GP において 2 件の教育プログラムが支援対象として選択された。全国に先駆けて実現された本学のテュートリアル教育も、累進型テュートリアルへと進化を遂げ、その成果を挙げつつある。

6) 教育環境の整備

本学においては、教育内容の充実に比して、教育環境の整備が遅れている。テュートリアル教育のための教室と教員の数的確保においては、かなり困難な状況が続いており、これを改善する必要がある。また、臨床実習においても、学生の教育用のスペースが極端に不足しているため、新病棟の建設に際し検討する。

7) 医学教育改革

平成 18 年から、全国共通の CBT (Computer-based testing : 知識を評価する多肢選択問題からなるコンピューター試験) 及び OSCE (Objective structured clinical examination : 客観的臨床能力試験) が施行されるようになり、既に実施されている卒業臨床研修の制度とあいまって、わが国における医学教育は新しい段階に入ったと言える。このような中で、統合カリキュラム、テュートリアル、そして人間関係教育という三本柱に支えられた本学の教育は、全国的にも高く評価されているが、社会的責任を十分に果たし得る良医を育成するためには、今後、医療の社会的ニーズに適合する医学教育を、卒前・卒後の全体を見据えて更に整備する。

(2) 東京女子医科大学 看護学部

1) 学生の質の向上

- ・ 一般入学試験に加えて、推薦入学試験ならびに指定校推薦制度を取り入れ、将来あらゆる人々に対し、適性判断に基づき質の高い看護を実践できることに重きをおいた入学試験を実施する。入学後は、大東キャンパスと河田町キャンパスの 2 つの施設の教育環境を生かした教育課程を通じて、人間性豊かな生涯学び続ける看護職者の育成を目指す。
- ・ 平成 15 年 4 月に施行された学習指導要領による教育を受けた学生（いわゆる“2006 年問題”）に対し、学生が学んできた教育の経緯を踏まえ効果的な教育方法を見出す努力をする。

2) 教員の質の向上

- ・ ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動を活発に行うと同時に、学会参加への支援はもとより学外のセミナーや研修・講習会への派遣、海外研修を積極的に進める。
- ・ 現在行っている学生による授業評価の結果の公開を検討し、教育活動実績の評価法の確立を目指す。

3) カリキュラムの質の向上

- ・ カリキュラム編成にあたっては、①人間の本质を問う、②生活している人間の環境、③健康障害と生活の調整、④働きかけの基本活動、⑤人間性を育む、⑥各専門領域への発展、を基本とし、「至誠と愛」の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎の確立、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識

し、専門的な責任を自主的に果たし得る看護実践者の育成に努める。

- ・ 養護教員養成コースを設置し、学生と社会のニーズに対応するためのカリキュラムの検討を行う。
- ・ 大学院看護学研究科の大学院生と学部学生との有機的なつながりを通し、専門職として生涯学び続ける素地としての関係づくりに努める。

4) 教育環境の整備

- ・ 学籍管理において、効率化に向けたシステムの充実を図り学生への迅速な対応と労務環境の一層の整備を図る。
- ・ 本学部の校舎は、大学院看護学研究科と認定看護師教育センターの教育の一部を併せ行っており非常に手狭のため、限られた物理的環境を改善し最大限効率的に利用する。更に、臨地実習においても、学生の教育用スペースが殆どない状況にあり、新病棟の建設に際し検討する。

5) 国際化の推進

- ・ 特色ある教育の一環としてのハワイ大学（米国）への海外研修を継続して行う。今年度は ALVERNO 大学（米国）との提携を予定している。
- ・ 今後はアジア諸国との交流および留学生の受け入れ体制、単位の互換性を含めた双方の交流体制の整備を検討する。
- ・ 教員の提携校との共同研究への支援や卒業生が国際社会で活躍するための拠点作りを検討する。

6) IT システムの活用

テキサス大学との IT 化による授業を実施している。今年度は、特に大東キャンパスとの交流や授業など、教員・学生・職員が授業・業務・研究に日常的に活用できるようにする。

7) 認定看護師教育の推進

透析看護および手術看護の認定看護師教育センターでは、学位授与機構の単位修得が可能な唯一つの認定看護師教育モデル校として一層充実させる。

8) 今後検討すべき課題

特に大東キャンパスにおいては、看護学教員による市民を対象とした学習会やサポート活動を推進し、地域に開かれた大学としての市民権を獲得し、相互発展のユニークな大学の拠点を創造する。

(3) 東京女子医科大学大学院 医学研究科

- ・平成 18 年度から医療練士大学院生の受け入れが始まり、本医学研究科は、高度専門職の養成という新しい大学院機能を担うことになった。
- ・本医学研究科は、形態学系、機能学系、社会医学系、内科系、外科系、先端生命医学系の 6 つの系から成るが、先端生命医学系には新たに統合医科学分野が加わり、国際統合医科学インスティテュートとの連携の下に活動を開始している。
- ・本医学研究科では、第 3 学年時に公開の中間発表会を設けているが、各大学院生に対して全ての主任教授からの研究アドバイスを受けると同時に、他の大学院生や教員との討議を通じて、研究のあり方や討議能力の向上を図るのによい機会であり、今後もこれを発展させていきたい。
- ・教育においては、現代 GP<<文部科学省 平成 16 年度現代的教育ニーズ取り組み支援プログラムー「人材交流による産学連携教育」>>が採択されている。

(4) 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

- ・平成 18 年度は、大学院博士後期課程が完成年度を迎えるにあたり、前期課程を含めた自己点検・評価を行う。また、次の 3 点を中心課題として取り組む。①先端生命看護リサーチリーダー育成プログラム開発、②特色ある教育開発、③大東地域教育プログラム開発。
- ・テキサス大学（米国）など海外とのリアルタイムの遠隔授業は、学生の国際感覚を養い研究者としての広い視野を培っているため、更に IT の活用を推進する。
- ・前期課程において、平成 19 年度に母子看護学に助産師コース（仮称）を開講するための準備を行う。
- ・前期課程を踏まえて後期課程に看護基礎科学（食看護学、看護管理学、看護職生涯発達学）、実践看護学（クリティカルケア看護学・がん看護学、母子看護学、老年看護学、解釈的精神看護学、地域看護学）を開講しており、平成 18 年度は博士課程の完成年度にあたるため更に一層の充実に努める。
- ・研究成果を社会に発信する場として東京女子医科大学看護学会を一層充実・発展させる予定。

(5) 東京女子医科大学 看護専門学校

1) 教育の質の向上

- ・ 今後のカリキュラム改正も見据えて、学校理念に基づき特色のある教育内容を検討する。特に安全教育・倫理教育・技術教育の強化を図る。
- ・ 臨地実習での学びの質を高め、看護実践基礎能力の育成を図る。
- ・ 教育活動評価システムの検討、特に授業評価の見直しを行う。

2) 定員充足

学生確保のために、入学試験実施要領および募集活動の見直しを行う。

3) 教育環境の充実

- ・ 学籍管理システムの見直しを行い、学籍管理の効率化を図る。
- ・ 学生の多様化する問題に対する支援体制の見直しをする。
- ・ 学校安全管理体制の見直しとシステムの強化を行う。

(6) 図書館

1) 情報流通環境の整備（次世代図書館システムの導入）

OPAC（オンライン目録）を拡充してコミュニケーション機能を強化する。

2) e-Learning の普及

病理画像情報ファイルのデジタル化を推進し、学生ホームページに掲載する。

3) 地域に開かれた図書館活動の推進

患者図書館「からだ情報館」の市民への広報活動を推進する。ビデオ講演会、プラスティネーション等の展示企画を実施する。

(7) 国際交流

平成9年にウェールズ医科大学（英国）と大学間交流協定を締結して以来、協定校の拡充に力を入れ、現在海外の10校と協定を締結し、学生の派遣および受け入れを行っている。医学部では平成18年度も、前年度同様、1～2ヶ月間の病院実習を目的とした交換留学生の派遣（18名）、受入（18名）を実施する予定である。また、看護学部ではハワイ大学（米国）短期研修を実施しており、平成18年度も前年度同様20数名の学生の参加を予定している他、新たにALVERNO大学（米国）との学生交換を検討している。

(8) シンポジウム・公開講座

1) 第6回アジア・太平洋PBLカンファレンス

（第3回東京女子医科大学国際シンポジウムとして開催）

日本で開かれる初めての医学教育に関する国際学会であり、本学が行っている特色ある教育の成果を広く世界に発信する。

(会長：高倉公朋 学長、平成 18 年 5 月 26～28 日、於 本学弥生記念講堂 他)

2) 第 25 回公開医学講座

医師、パラメディカルを対象に開催予定。(平成 18 年 5 月 20 日、於 本学弥生記念講堂)

3) 第 26 回公開健康講座

一般の方を対象に開催予定。(平成 18 年 11 月 18 日、於 本学弥生記念講堂)

【研究】

(1) 先端生命医科学研究所

国内外施設、学内発ベンチャーをはじめ多くの企業間での人材交流、共同研究により、単なる基礎研究にとどまることなく、臨床応用や産業化を視野に入れながら、先端技術の教育・研究・開発を行う。

- ・ 細胞シート工学を中核技術とする再生医療の臨床応用を実現する。
- ・ 新規バイオマテリアルの開発と医学領域における応用を実現する。
- ・ 環境負荷を低減する水系クロマトグラフィーシステムの開発を行う。
- ・ バイオメディカルカリキュラムなど、真の医工連携、産学連携を達成する人材育成を行う。

(2) 総合研究所

- ・ 共同利用施設の利用環境改善のため、実験室の用途をニーズに合わせて変更し、そのための設備工事を行う。
- ・ 共同利用施設の実験机につき、誰もが交代で使えるオープンスペースシステムを拡張し、一部を高頻度使用者の専用として再配分する。
- ・ 放射性同位元素実験室にオートラジオグラフィー用試料作成・イメージング装置を設置する。
- ・ 先端的且つ発展性ある研究グループを時限付き研究部門として新設する。

(3) 実験動物中央施設

- ・ 実験動物の飼育・管理の充実を図る。
- ・ 大・小動物の実験における効率的管理法の検討を行う。
- ・ 関連法規改正などに伴う情報の収集と提供を行う。
- ・ 動物実験の倫理と実験動物福祉に関する教育・啓蒙を行う。

(4) 国際統合医科学インスティテュート (IREIIMS)

- ・ 文部科学省 平成 17 年度科学技術振興調整費の支援による戦略的研究拠点育成プログラム (Super COE) 「国際統合医療研究・人材育成拠点の創成」が採択され、国際的に開かれた大学間連携、産学協同の研究体制が開始され、2年目を迎える。
- ・ 研究分野については、①疾患の包括的遺伝子細胞研究、②超早期診断のための CT、MRI、PET 等の分子イメージング技術の開発に関する研究、③高分子ミセルによる抗がん剤のターゲティング、心血管障害治療の基礎的研究、④疾患の遺伝子変異解析用 DNA チップの開発、⑤特定保健用食品、栄養機能食品、漢方薬などの科学的検証による有効性・信頼性評価、を行う予定。

- 人材育成分野については、統合医科学情報基盤（CIMI）を活用した人材育成コースをテュートリアル形式で実施する予定。
- 大学院先端生命医科学系専攻に新設した統合医科学分野の教育活動を行う。
- 国内外の参加大学（テキサス大学、上海交通大学医学院、慶應義塾大学、東京大学医科学研究所）との協力協定の締結等による連携を強化する。
- 第2回 IREIIMS 公開シンポジウムを平成18年12月3～5日に開催予定。

【医療】

(1) 東京女子医科大学病院

1) 質の高い安全な医療の提供

- ・ 医療記録の標準化を推進し、電子カルテシステム（第 2 期計画）を導入して情報の共有化を図る。
- ・ 医療機能評価の受審を視野において医療機能改善プロジェクトを推進する。

2) 患者様の満足度の向上

- ・ 患者満足度調査を含め患者様の声を積極的に病院運営へ反映する。
- ・ 情報公開とインフォームドコンセントを徹底するとともにホームページ等の充実を図り広報活動・体制を強化する。

3) 施設整備、アメニティーの改善

平成 19 年 1 月着工を目指して第 1 病棟建築の準備を推進する。

4) 経営基盤の安定

- ・ 病床稼働率の向上、在院日数の短縮を図り安定収入の確保を図る。
- ・ 購買・物流の合理化および購入価格の削減、人的効率・業務効率の見直し、大口経費圧縮等により収支改善を図る。
- ・ 病棟の電子カルテシステム導入、データウェアハウスの構築、IT 化の推進により病院経営管理データを整備充実する。

(2) 東医療センター

- ・ 臨床研修部を設置し、医師の卒後研修体制の充実を図る。また、平成 18 年度より新制度となった歯科臨床研修医制度の充実を図る。
- ・ 患者様へ質の高い安全な医療を提供するために、クリニカルパス導入に対する具体的推進と医療安全対策室及び感染対策室の強化を図る。
- ・ 施設環境整備の第 2 段階として 2・3 号館を取壊し、管理棟（仮称）を新築するとともに跡地を緑化及び駐車スペースとして活用、施設環境の改善・充実を図る。
- ・ 患者様の満足度の向上を図るために、
 - ①外来での待ち時間の解消のために電話予約システムの導入検討を行うとともに、患者相談室を正式に設置、専任者をおき患者サービスの向上・改善を推進する。
 - ②入院患者様への給食の質とニーズに応えたフードサービスの向上に努め、入院生活環境の満足度の向上を図るとともに管理栄養士による病棟訪問を増やし、栄養ケアにも力を入れる。
 - ③外来担当表及び認定医一覧表を整備することにより、来院患者様及び地域医療機関からの紹介患者様に疾患別の専門医師が分るように受診の際の目安

としてもらう。

- ④盗難、防犯、防火の管理体制強化を進め、来院患者様が安心して受診できる体制を整備する。
- ⑤荒川区より要望のある女性専門外来を平成 18 年 4 月を目途に開設予定。

(3) 成人医学センター

- ・ サービスの向上の一環として、全体のシステムを見直し、待ち時間の軽減や業務の合理化、効率化を図る。(オーダリング、PACS (Picture Archiving and communication system : 医用画像システム)、医事、健診、栄養、予約の各システムの 신설及び更新を実施する。平成 18 年度稼働予定。)
- ・ 渋谷医療連携フォーラムを引き続き実施し、地域医療機関との連携を強化する。
- ・ 健診の会則および健診コースの見直しを行う。

(4) 膠原病リウマチ痛風センター

- ・ 関節リウマチの疫学調査である J-ARAMIS を継続させ、データ解析を更に行う。これにより学会発表、国際誌発表はもとより、最良治療法の発見、患者様に合った治療法の実施、医師の品質管理 (QCD: quality control of doctors) を行う。
- ・ 学生教育として PPP (Patient partnership program: 患者参加型学生教育) を継続する。
- ・ 卒後リウマチ学教育として ITCR (Integrated training course of rheumatology: リウマチ学を志す全国の医師が当センターで 1-2 年の研修を行う) を継続する。

(5) 東洋医学研究所

- ・ 診療待ち時間や診療体制など患者様の視点に立ったサービスの改善に取り組む。
- ・ 近代医学的により正確な病態把握の上に本来の漢方治療を行うことで高度な診療研究を行うために専門外来を設置する。

(6) 青山病院

- ・ 事務部門を中心とした IT 化をさらに進める。
- ・ 保険会社との契約のもと新しい健診システムを構築する。
- ・ 病床稼働率の向上のため、在院日数の短縮および休日利用の促進を図る。
- ・ 一般外来の整備と拡充のために医療連携室の機能向上と専門外来の充実を図る。

(7) 女性生涯健康センター

- ・ 第二クリニック（心理相談室）を開設し、患者様のニーズに応え、専門性の高い心理療法を提供する。
- ・ 女性医学専門家の育成のために、女性医学に興味・関心がある医師、心理士、看護師等に対し、見学、研修などの門戸をひらく。短期型専門家育成プログラムを計画する。
- ・ 婦人科系健康診断に精神健康評価と自律神経機能評価を組み込んだ女性のための健康診断：Women's Health Check（仮称）を立ち上げる。

(8) 青山女性・自然医療研究所

- ・ 統合医療教育の中心機関としての体制を整える。現在教育プログラムを作成中。
- ・ 補完・代替医療の検証機関として補完・代替医療の検証方法を確立する。
- ・ 日本の大学で唯一の統合医療実践施設として安定した公的研究費を確保する。
- ・ 本院や他の学内機関とも連携を強め、また中国などとも国際協力し、集学的な治療の確立を目指す。

(9) 遺伝子医療センター

- ・ 臨床心理士による遺伝性疾患の遺伝カウンセリング後のフォローアップを更に充実し、受診者の心のケアを十分に行う体制を整える。また、学内・学外の医療機関との連携の充実を図るとともに、遺伝子検査の技術の向上、効率化、検体管理体制の強化を図る。
- ・ 臨床遺伝専門医の研修施設として、学内・学外の研修希望者を受け入れ、本学大学院やお茶の水女子大学大学院の教育を担当し、遺伝子医療に携わる専門職の養成を行う。

【経営・管理】

(1) 中長期経営計画の策定

「マスタープラン 21 プロジェクト」（仮称）により法人全体の将来構想（中長期マスタープラン）と、それを達成するための中短期先導プランを作成する。

(2) 財政基盤の強化

- ・ 常に最新の情報を加えた精度の高い収支予測・資金計画を策定する。
- ・ 経費削減への取り組みを継続し、医療収入の安定確保を図り収支の改善を推進する。
- ・ 公的補助金（競争的研究資金も含め）の積極的な獲得に努めるとともに交付された補助金の適正管理を行う。

(3) 組織・制度の見直し

- ・ 個人情報保護と管理の徹底を図る。
- ・ 認証評価機関による第三者評価の受審に向けた準備を進める。
- ・ 勤怠管理の改善を目指し、タイムレコーダーを導入するとともに職員定数の見直しを検討する。

(4) 人事制度の充実

- ・ 接遇教育および各種研修を実施する。また有能な若手事務職員を外部団体の研修会へ積極的に派遣する。
- ・ 導入2年目を迎える目標管理制度の改善・充実を図り、人事制度改革に向けての検討を行う。

(5) 情報戦略の策定

- ・ IT ガバナンス体制、情報推進体制を強化・確立する。
- ・ 広報戦略の一環としてホームページの充実を図り、学内・学外への情報公開を推進する。

(6) 物品の購入・管理

電子購買システムを導入することにより、事務の効率化・合理化を推進する。

(7) ファシリティマネジメント

- ・ 防災、防犯業務を主体とした危機管理体制の見直しおよび安全管理の徹底・推進を図る。
- ・ 「地球温暖化対策計画書制度」に基づき東京都へ提出した「エネルギー削減計画」（5カ年計画）の目標達成に向け、2年目の計画を実施する。

Ⅲ. 平成 18 年度予算について

法人の目標管理制度の導入により、予算制度のあり方も根本的に変革を求められています。また、平成 17 年 4 月の私立学校法の改正により、事業報告書の作成が義務付けられました。このことは、事業計画に基づく予算を立て、予算に基づく活動を行い、そして決算を経て事業報告を行うことが求められていると受け止めています。

そこで、平成 18 年度の予算編成にあたっては、法人事業計画に基づき、重点施策に対して予算を配分する方針を掲げ、従前の予算編成作業を全面的に改めることから始めました。

しかしながら、診療部門においては、予算制度になじまない側面もあり、収支計画を目標設定として位置づけ、予算策定上は目標管理数値と捉えて予算に取り入れていくなどの工夫が必要と考えています。現時点では、各部門における目標計画の策定もようやく芽吹いた段階であり、予算のあり方も直ちに改変することは難しいことから、事業計画書の充実とともに編成作業を漸次見直していかなければなりません。

今年度は、これまで各施設・部門ごとに理事会へ提出していた予算案を法人予算案に一元化し作成することとし、事業計画の重点施策を具現化できるよう予算に盛り込みましたが、本院の病棟再編の影響により、建物取り壊し費用及び改修費用等が増加することから支出が収入を上回る赤字予算を組まざるをえず、各部門に対しては、支出の切り詰めをお願いし、結果として厳しい配分となっています。

厳しい経営環境を全職員が認識し、限られた財政の中で効率的に運営が行えるよう各部門においては、財政支出の見直しに積極的に取り組んでいただき、事業目標を達成しなければなりません。皆様のご理解とご協力をお願いします。

1. 資金収支予算

(1) 資金収入

学生生徒等納付金収入は、前年度比 1.6% 63 百万円増の 40 億 93 百万円を計上した。補助金収入は、国庫補助金を 41 億 30 百万円、地方公共団体補助金を 9 億 67 百万円、学術研究振興資金を 1 百万円見込み、補助金全体では前年度比 0.9% 47 百万円増の 50 億 98 百万円を計上した。

医療収入は、保険改定の影響による減収をカバーするよう各施設で最大限の努力を行うこととしたが、本院での病棟解体もあり、入院収入は減収を見込んだ。また、18 年 12 月に千葉県八千代市に開設予定の八千代医療センターについては、3 ヶ月の稼働を織込んだ。医療収入全体では前年度比 3.9% 22 億 36 百万円増の 601 億 91 百万円を計上した。

借入金等収入は、全体で 85 億 93 百万円を見込み、そのうち八千代医療センターの開設資金として 50 億円を計上した。

その他の収入は、137 億 99 百万円を計上し、その中に附属病院施設整備引当預金からの繰入収入を 37 億円計上した。

(2) 資金支出

人件費支出は、八千代医療センター開設に伴う人員増ならびに新医療練士研修生制度スタートによる増加、専任教員の雇用保険加入による負担増もあり、前年度比 3.1% 10 億 34 百万円増の 347 億 39 百万円を計上した。

教育研究経費は、前年度比 7.4% 20 億 70 百万円増の 299 億 91 百万円を計上した。管理経費は、前年度比 2.7% 61 百万円減の 22 億 28 百万円を計上した。

借入金等返済支出は、長期借入金の約定返済が始まるため 48.9% 17 億 11 百万円増の 52 億 13 百万円を計上した。

施設関係支出は、八千代医療センター新築工事、東病棟改修工事、中央病棟改修工事、東医療センター管理棟新築工事等を含め、前年度比 24.6%増の 101 億 87 百万円を計上した。

設備関係支出は、八千代医療センター開設に伴う機器購入分があるため 269.3%増の 70 億 75 百万円を計上した。

平成 18 年度 資金収支予算書

支出の部				収入の部			
				(単位：百万円)			
科 目	18年度予算	17年度予算	差 額	科 目	18年度予算	17年度予算	差 額
人 件 費 支 出	34,739	33,705	1,034	学生生徒等納付金収入	4,093	4,030	63
教育研究経費支出	29,991	27,921	2,070	寄 付 金 収 入	1,088	1,142	△ 54
管 理 経 費 支 出	2,228	2,289	△ 61	補 助 金 収 入	5,098	5,051	47
借入金等利息支出	212	199	13	資 産 運 用 収 入	1,197	948	249
借入金等返済支出	5,213	3,502	1,711	医 療 収 入	60,191	57,955	2,236
施 設 関 係 支 出	10,187	8,176	2,011	借 入 金 等 収 入	8,593	5,116	3,477
設 備 関 係 支 出	7,075	1,916	5,159	そ の 他 の 収 入	13,799	10,336	3,463
そ の 他 の 支 出	6,478	5,697	781	前年度繰越支払資金	5,024	6,518	△ 1,494
予 備 費	500	500	0				
次年度繰越支払資金	2,460	7,191	△ 4,731				
合 計	99,086	91,100	7,986	合 計	99,086	91,100	7,986

(注記) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 消費収支予算

帰属収入は、前年度比 5.1% 35 億 64 百万円増の 740 億 94 百万円を計上した。

基本金組入額は、81 億 66 百万円を計上した。

帰属収入から基本金組入額を差引いた消費収入は、前年度比 3.3% 21 億 29 百万円増加し 659 億 28 百万円となる。

一方、消費支出は、前年度比 5.8% 40 億 97 百万円増の 744 億 67 百万円を計上した。消費収入 659 億 28 百万円から消費支出 744 億 67 百万円を差引いた消費収支差額は 85 億 38 百万円の支出超過となる。

また、帰属収入 740 億 94 百万円から消費支出 744 億 67 百万円を差引いた帰属収支は 3 億 73 百万円の支出超過であり、赤字予算を組むこととなった。資金収支と重複するものを除いて主な項目について説明する。

(1) 消費収入

寄付金は、現物寄付金 1 億円を見込み、全体で前年度より 31 百万円減の 11 億 88 百万円を計上した。

(2) 消費支出

教育研究経費は、減価償却額を含め 353 億 65 百万円を計上した。

管理経費は、減価償却額を含め 28 億 60 百万円を計上した。

その他の支出は、建物解体に伴う除却損 7 億 36 百万円を計上したことにより 7 億 33 百万円増加した。

平成 18 年度 消費収支予算書

支出の部

科 目	18年度予算	17年度予算	差 額
人 件 費	34,994	34,254	740
教育研究経費	35,365	32,798	2,567
管 理 経 費	2,860	2,817	43
借入金等利息	212	199	13
その他の支出	833	100	733
予 備 費	200	200	0
消費支出合計	74,467	70,370	4,097
収 支 差 額	△ 8,538	△ 6,570	△ 1,968
合 計	65,928	63,799	2,129

収入の部

(単位：百万円)

科 目	18年度予算	17年度予算	差 額
学生生徒等納付金	4,093	4,030	63
寄 付 金	1,188	1,219	△ 31
補 助 金	5,098	5,051	47
資産運用収入	1,197	948	249
医 療 収 入	60,191	57,955	2,236
その他の収入	2,325	1,324	1,001
帰属収入合計	74,094	70,530	3,564
基本金組入額	△ 8,166	△ 6,730	△ 1,436
合 計	65,928	63,799	2,129

帰属収入－消費支出	△ 373	△ 160	△ 533
-----------	-------	-------	-------

(注記) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

主な事業に対する予算措置

(単位：百万円)

テーマ	平成18年度の重点施策	予算額
1. 教育		
(1) 学生の質の向上	・ 広報活動の充実と情報収集と分析。推薦入試枠の検討	7
	・ 入学後から卒業時までの成績、国家試験合格と入学形態および入学時の成績との関係性の実証的分析	19
	・ 入学志願時から卒業後までの学生の知識・技能・態度評価情報のデータベースの作成	11
	・ 臨地実習の質の向上 [看護学部・看護専門学校]	15
(2) 教員の質の向上	・ 看護研究のユーザーへの還元 [看護学部]	1
(3) カリキュラムの質の向上	・ カリキュラム評価・改革委員会設置と、次世代の教員を含む新しい医学教育カリキュラムの検討 [医学部]	69
(4) 女性医師・医療人育成のためのバックアップ	・ 女性医学専門医育成プログラムの構築 [女性生涯健康センター]	3
(5) 教育全般の評価	・ 自己点検評価審議委員会の設置、理事会の自己点検評価に対する文書による総括	3
(6) 教育環境の整備	・ 情報流通環境の整備（オンライン目録を拡充、コミュニケーション機能の強化） [図書館]	3
	・ 教育・臨床実習等の設備の充実 [医学部]	48
	・ 情報教育の促進（パソコン関連機器の整備、遠隔授業の充実） [看護学部]	26
	・ 学籍管理システムの見直し [看護専門学校]	1
	・ 映像画像情報ファイルのデジタル化の推進 [図書館]	2
	・ パソコン等による教育支援 [図書館]	1
(7) 国際交流の推進	・ 交換留学制度の充実 [国際交流委員会室]	15
(8) 大学院の充実	・ 早稲田大学との新形態融合大学院構想の推進。	165
(9) 卒後教育の充実	・ 卒後臨床研修体制の充実 [東医療センター]	105
(10) シンポジウム・公開講座	・ 第6回アジア・太平洋PBLカンファレンス（第3回東京女子医科大学国際シンポジウムとして開催）	23
	・ 第25回公開医学講座 [医学部]	1
	・ 第26回公開健康講座 [看護学部]	1
2. 研究		
(1) 研究環境の向上	・ 国際統合医科学インスティテュート（Super COE）等の大型研究組織の円滑な推進	865
3. 医療		
(1) 質の高い安全な医療の提供	・ 医療記録の標準化（クリニカルパス、医療記録の整備）	5
	・ 情報の共有化(第2期電子カルテシステム) [本院]	1,210
	・ 電子カルテシステム導入（日暮里ビルクリニック） [東医療センター]	50
	・ 院内のIT化 [東医療センター]	20
	・ 医療安全体制の充実 [東医療センター]	7
	・ 災害拠点中核病院としての機能強化 [東医療センター]	5
	・ 患者様に合った治療法の実施 [膠原病リウマチ痛風センター]	200
(2) 患者様満足度の向上	・ 電話予約システムの導入 [東医療センター]	25
	・ 患者給食サービスの改善推進 [東医療センター]	8
	・ 待ち時間短縮と診療体制の見直し [東洋医学研究所]	43
	・ 心理相談室の開設 [女性生涯健康センター]	3
	・ 八千代医療センターの開設 [八千代医療センター]	11,867
	・ 日暮里ビルクリニックの開設 [東医療センター]	316
(3) 経営基盤の安定	・ 診療収入単価増・病床稼働率増を目指す（小児看護師・栄養士の増員） [東医療センター]	59
	・ 検査科光学診療部の地域連携の充実 [東医療センター]	51
	・ 領収書の明細化 [東医療センター]	5
(4) その他	・ 建物・設備改修工事（脳神経センター移転、跡地改修、取り壊し） [本院]	1,200
	・ 第1病棟関連経費（設計費、建設着工費） [本院]	800
	・ 物流・薬剤管理システムの推進 [東医療センター]	5
	・ 管理棟（仮称）建設の実施 [東医療センター]	330
	・ システムの見直しと更新 [成人医学センター]	200
	・ IT化の促進 [青山病院]	30
4. 経営・管理		
(1) 人事制度の充実	・ 接遇教育および各種研修の実施 [人事部]	1
	・ 目標管理制度の実施、人事考課制度の策定 [人事部]	4
(2) 情報戦略の策定	・ 情報管理推進体制の整備 [情報システム部]	20
	・ ホームページの拡充、情報漏洩防止・情報システム個人情報保護対策の拡充 [情報システム部]	88
	・ 諸規程の公開イントラ掲載、CD化 [総務部]	1
(3) 物品の購入・管理	・ 電子購買システムの導入 [用度部]	3
(4) ファシリティマネジメント	・ 防災・防犯を主体とした危機管理の徹底	25
	・ 書架耐震整備 [図書館]	3
	・ 省エネルギーへの取り組み（省エネ型ボイラー更新） [施設部・東医療センター]	46
(5) その他	・ 勤怠管理の改善（タイムレコーダーの導入） [人事部]	30
	・ 科研費管理システムの導入 [教育・研究資金室]	8

学校
法人 **東京女子医科大学**

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号

TEL 03 (3353) 8111 (代表)

<http://www.twmu.ac.jp/>